



2023年度
年間聖句

愛には偽りがあってはなりません。悪を憎み、善から離れず、兄弟愛をもって互いに愛し、尊敬をもって互いに相手を優れた者と思いなさい。怠らず励み、霊に燃えて、主に仕えなさい。希望をもって喜び、苦難に耐え忍び、たゆまず祈りなさい。

ローマの信徒への手紙 12章9節～12節

輝くゆくて

広島女学院同窓会前会長
2024年ホームカミングデー実行委員長 大矢 みどり



同窓会の大切な行事の一つであるホームカミングデーは年代の異なる三学年(2021年より49歳・61歳・71歳)が担当し企画・運営を行っております。私もこの度、最後の学年として携わる事となり、感慨深く思っております。毎年、コンサートや講演会のほかにも色々な知恵を絞った企画が催され、その中から「同窓生の歌」や同窓会のDVDも生まれて参りました。今回のホームカミングデーは校歌にも歌われている「輝くゆくて」がテーマです。それぞれの方にお一人おひとりの「輝くゆくて」があるという思いを込めました。輝くゆくてを切り開いていくのは自分自身である事を、私達は広島女学院の教育の中で学んできたのではないかと思います。毎朝の礼拝で様々な方のお話を聞き、時には自分達が礼拝の担当者となり、皆で讃美歌を歌う。宗教週間、クリスマスの讃美歌コンクール、修学旅行、体育祭と創作ダンス、文化祭、大山登山と楽しかった思い出がよみがえります。それらが何より素晴らしかったのは生徒達が考え企画し行われたことです。ある時はグループのリーダーとなったり、支える側になったりしながら、ひとりの人としてどうあるべきか自分自身が考え行動するという自主自立の精神が培われていったように思います。チェストアップと言うゲーンズ先生のお言葉は、今も、顔を上げて真っ直ぐに輝くゆくてを見据えることの大切さを教えてくださっているように思います。

私は同窓会に携わるようになって、自分を形作っている根本に広島女学院の教育が深く関わっていることに気付かされ、その教育を受けてこられた事に大きな喜びと感謝を感じております。

ホームカミングデーは、懐かしい先生や同窓生と旧交を温めると共に現在の広島女学院と同窓生をつなぐ場でもあります。

137年の歴史の中で、多感な時期を共に過ごした同期生、先輩、後輩たちと、今一度集い語らい、一人ひとりの輝ける明日の為の糧になればと思います。

母校の名の下に集える幸せに感謝しながら、皆様とお会い出来ることを心より願っております。

2024年度 年間行事予定

| | |
|--|---|
| 4月19日(金) 4月20日(土) | 全国代表者会議 ホームカミングデー |
| 5月22日(水) | 関西ブロック会(大阪支部担当) 大阪城西の丸公園 大阪迎賓館 |
| 6月8日(土) 6月 6月9日(日) 6月15日(土) 6月15日(土) 6月 | 学年幹事の集い 同窓会報「花あやめ」18号発行 鳥取支部会 鳥取市 山口支部東部地区会 錦月堂本舗 愛媛・高知支部会 賀茂地区会 |
| 7月6日(土) | 関東ブロック主催(埼玉支部担当) 王子教会 「夏雲の集い」の後 映画「夏雲」上映予定 |
| 8月6日(火) | 広島女学院平和祈念式 |
| 10月19日(土) 10月 10月 | 福岡支部会 広島地区会 中部ブロック「あやめ会」 |
| 11月10日(日) 11月 11月 11月 11月 | 香川・徳島支部会 同窓会バザー(中高文化祭) 同窓会バザー(大学あやめ祭) 山口支部西部地区会 |
| 12月 | 同窓会クリスマス会(宗教委員会) |
| 2025年1月21日(火) | 高校 同窓会受け入れ式 |
| 2月 | 同窓会報「花あやめ」19号発行 |
| 3月 | 大学 同窓会受け入れ式 |
| 奇数月 第3水曜日 | 佐伯地区会 |
| 毎月 第4水曜日 | バイブルクラス(8月は休会) |

※詳しくは
広島女学院同窓会HPを
ご覧ください。

こちらから
アクセスいただけます



2024年 ホームカミングデーのお知らせ

テーマ 輝くゆくて

日時 2024年4月20日(土) 10:30~13:30

場所 リーガロイヤルホテル広島

会費 10,000円 ※同封の振込用紙にてお申し込みください。

2024年
ホームカミングデー
実行委員会
当番学年

高校23 短大22 文日5 文英5
高校33 短大32 文日15 文英15
高校45 文日27 文英27
生文1 生食1 生環1

今年度のホームカミングデーは、広告掲載なく、ご協賛を賜る形での開催を目指しております。ご協賛につきましては、以下の通りとさせていただきますので、どうぞ温かくお支えくださいませ。

1. 協賛金額 お志で結構でございます
2. 募集期間 2024年3月10日まで
3. 領収書を発行いたしますとともに、ご協賛いただきました法人ならびに同窓生、他皆様のご芳名をプログラムに掲載させていただきます。(50音順)

*ご協賛いただける方は、以下のアドレスにご連絡をお願いいたします。

広島女学院同窓会ホームカミングデー委員会:
2024hcd@gmail.com

高校33回 同期生のみなさま

今年は私たちの同期会「美美会」を開催する予定にしておりましたが、ホームカミングデー担当学年(ミドル)にあたるため、開催を見送り、ホームカミングデー参加による再会と懇親を図ることにいたしました。

来年4月20日のホームカミングデーで、たくさんの同期の皆さまにお目にかかれることを楽しみにしております。

新本 由美子(梅田)
京本 容子(前川)

寄付 2023年9月

高校29回同期会 10,737円

花あやめ編集委員会 Gmailアドレスのお知らせ

いつも広島女学院同窓会報「花あやめ」をご愛読いただき有難うございます。

この度、花あやめ編集委員会の専用アドレスを開設いたしました。ご感想やご意見、また貴重な資料・情報などございましたら、以下のアドレスまでお寄せください。お待ちしております♪

花あやめ編集委員会:hanaayame17@gmail.com

召天

謹んで哀悼の意を表します。

| | |
|-----------------|-------------------|
| 植田 富美子 高女52専保2 | 大上 恭子(野田) 高8 |
| 向井 宏子(大東和) 高10 | 片岡 昭恵(中島) 高13大英13 |
| 瀬尾 優子 高20文日2 | 島田 富美子(伊藤) 高女50 |
| 佐々木 敦子(佐々木) 高4 | 三上 廣子(東儀) 高6短5 |
| 竹内 春美(遠藤) 大英8 | 津田 千寿子(三上) 短4 |
| 河本 隆子(菱川) 高21 | 堀江 富美子(繁村) 専英25 |
| 堤 祝子 高18 | 渡辺 美都子(松永) 専被2 |
| 稗田 久子(小川) 高女50 | 岡本 喜代子(安宅) 専保2 |
| 池田 桂子(船越) 高8 | 馬場 静枝(小松) 高14 |
| 神原 篤子(古川) 文英6 | 田坂 千代子(桜木) 高5 |
| 鈴木 公子(鈴木) 専被3 | 宮田 ミドリ(田中) 高女47 |
| 後藤 沙希子 生デ5 | 杉岡 恵美子(仲野) 高6 |
| 松野 哲子(岩田) 高女46 | 山田 頼子(小西) 短25 |
| 塚本 登喜江(横田) 高女55 | 大石 早苗(下井田) 高8短7 |
| 藤田 淳子(武田) 大英16 | 富野 政恵(永田) 専家24 |
| 野村 昭子(落合) 高女52 | 津田 サトエ(三村) 専被4 |
| 小坂 絹枝(吉岡) 高女53 | 真倉 栄(村田) 高4 |
| 木阪 静世(奥田) 高女40 | 三戸 和子(山部) 大英9 |
| 住本 悦子(坪島) 高4短3 | 浜田 直子(隅田) 高16大英16 |
| 長谷川 富美子(西田) 短3 | 松川 清枝(横田) 高6 |
| 田頭 稗子 高14大英14 | 中本 素子(西村) 高6 |
| 清水 恭子(阿波) 高女50 | 住吉 寿枝(芳野) 高6 |

2023年3月から2023年11月までにご逝去のお知らせをいただいた方々です。(敬称略)

新年のご祝辞を申し上げます。

同窓会活動復活! 編集委員一同、晴れやかな気持ちで「支部会だより」満載の今号をお届けいたします。

精神伝達式を取材する中で、ふと感じた「女学院スピリットって何?」との思い... それはきつと執筆途中で倒れ病床にて書き続け上梓された湊先生をはじめ、G7広島サミットを陰で支えた

同窓生そして、さまざまなライフステージで人知れず励む私たちが常に支え輝かす力と言えるでしょう。これからも「花あやめ」はそんなスピリットをお届けしてまいります。

戦いの報道になすすべもない小さき者として、せめて日々の生活の中では小さな平和を広げていきたいと祈ります。「輝くゆくて」をのぞみつづ。



「精神伝達式」が行われていた ことをご存じですか？

「精神伝達式」・・・そんな名前の厳肅な儀式がかつて行われていたことをご存知でしょうか。
ある日私たちは「創立九拾周年記念誌」の中にこんな記事を見つけました。

学院精神伝達式の廃止

毎年卒業期中・高・大の卒業学年全員が一堂に会し、卒業生代表が在校生代表に対し、学院精神のシンボルである校旗と文箱を手渡し、これによって学院精神を伝達するという儀式が終戦後欠かさず行われてきた。しかし、学園騒乱以後、この儀式はとりやめになった。



在校生へ文箱を手渡す卒業生 ▶
(昭和31年)

えっ？「文箱」の中には何が入っているの？
伝達された「学院精神」ってなあに？

この儀式に参加したという
塩治みはるさん
(高9大英9)に
聞いてみました。

しんと静まり返った講堂の壇上で、文箱を両手に抱えて持ったこと、告文だか誓詞だかを読み上げたことは覚えています。
古くて堅い文章だったから、こっそり一部変えて読んだけど何も言われませんでした。箱の中に何が入っていたのかは知りませんが、重かったですね。

告文？誓詞？
何が書かれていたの？

重かった？
ますます気になる！

早速、編集委員一同、牛田山の歴史資料館へ！ すると・・・2階のガラスケースの中に「文箱」と「2通の巻紙」を発見！



開けてみると
聖書が...

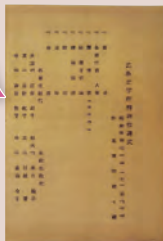


告文

私共この懐かしい學園の卒業に當り後に残られる学友の皆様へ廣島女學院の精神の象徴である校旗と文箱とを譲り渡します
我が女學院の精神はこの校旗に記されてある如く「我らは神と共に働くものなり」という信仰に根ざして神と人とへの奉仕を生活に實踐することにあります
この文箱に収めてある文書は、その七十有餘年に亘る光輝ある母校の歴史の記録であります
私共はかかる女學院精神によつて養われて来たことを無上の特権とし今日これを皆様に傳達することを大いなる光榮と感ずるものであります
常に新しく且つ直くあろうと努力する本學院教育が愈々、世人に認識せられ且つ要望せられている時皆様は自重自愛以て我らの廣島女學院の傳統を維持しその精神を益々發揚せられるよう申し傳えます

誓詞

敬愛する先輩の皆様へ御卒業に當り私共後輩に廣島女學院精神の象徴として意義深き校旗と文箱とを譲り渡されました
私共は謹んでこれを譲り受けその象徴する女學院精神と傳統とを協力一致して維持し且發揚するよう最善を以て先輩の皆様へ御期待に副うよう爰に嚴肅に誓います



伝達式の
プログラム



校旗

つまり、卒業生から在校生に向けて伝達されてきた「精神」とは校旗に刺繍された校章の信仰の盾の中に記される聖句「CUM DEO LABORAMUS (我等は神と共に働くものなり)」ということのようですね。

さて、この伝達された「精神」とは私たちがよく使う「女学院スピリット」と同じなのでしょう。さまざまな意味と思いを込めて使われる「女学院スピリット」について、次号でさらにお伝えしてまいりますので楽しみに！

*「精神伝達式」についての思い出や情報がありましたら花あやめ編集委員会までお知らせいただけましたら幸いです。

G7 広島サミットを終えて



田中 法子さん
(高45)

初めましての皆様も、ご無沙汰している皆様もこんにちは。約30年前に女学院を卒業した後、長い学生生活を経て外務省に入省し、15年が過ぎました。外務省員としての前半は国連関係の仕事が多く、世界の中の日本、そしてヒロシマについて考えてきました。広島は世界でも非常に特異な宿命を負った街だと思います。世界中どこにいても広島とそこで起きたことを知らない人はいません。一方で、ヒロシマから何を学び、どうつなげて行こうとするのかは、各国様々に異なります。特にマルチ(国連)の場では、それぞれの歴史や宗教観に配慮して議論する必要がありますため、私自身が広島出身であること、そして中学・高校時代に平和学習を通じて学んだこと、毎日の礼拝を通じ肌感覚で宗教に触れられたことは、仕事をする上で、文字通り大きな支えとなりました。

さて、社会人後半になってきますと、大型国際会議に関わるが多くなりました。首脳が参加する国際会議は、G7、G20、TICAD、ASEAN、APEC等数多くありますが、日本が開催地になるのはそれぞれ数年に一度です。2023年5月、議長国として7年ぶりとなるG7サミットが広島で開催されました。今回のサミットでは、私は岸田裕子夫人主催のパートナーズ・プログラムの企画・運営の仕事を頂きました。これは私が広島出身で、総理夫人と同窓であるから、という理由で決まったわけではありません。そもそも広島出身の省員が少ない中、総理夫人と出身校が同じこと自体省内でも非常に驚かれましたが、広島市から外務省のサミット事務局に出向してくれたHさん、広島県民会議のMさん、Tさんなど、蓋をあけると関係者は女学院生でいっぱい、本番では黒瀬真一郎先生にもお出まし頂くなど、岸田裕子夫人を中心に、女学院の皆様と一緒に作りあげたサミットとなりました。おそらく(私が省員であるうちは)二度とないであろう広島でのG7サミットで、女学院がご縁を引き寄せてくれたとしか思えません。これからも、聖句「CUM DEO LABORAMUS」を胸に、様々な場で活躍される皆様と、世界のどこかで一緒に働かせていただけることを楽しみにしています。

プロフィール

1993年広島女学院高校卒業後、広島大学に入学、ウォーリック大学大学院(英)、アムステルダム大学大学院(蘭)を経て、広島大学にて教育学博士号を取得、2007年外務省入省。

学年幹事の集い 6月10日

2023年6月10日、ゲンスホールに66名の学年幹事が集いました。

「ミニコンサート～讚美歌をご一緒に歌いましょう～」では、高校音楽部の皆様のさわやかな歌声とともに参加者の讚美歌がホールに響き、皆笑顔になりました。続いて長谷川先生のパイプオルガン演奏に癒しと感動をいただきました。

閉会后、ホームカミングデー実行委員の引継ぎを行いました。今後も充実した催しを準備して、学年幹事の皆様の参加をお待ちしております。

(学年幹事名簿委員会 脇 幸子)



広島女学院平和祈念式 8月6日

2023年8月6日、被爆78年平和祈念式が、司式・岩崎裕香同窓会副会長、奏楽・福岡美香先生のもと、ゲンスホールにて、執り行われました。コロナ禍で歌えなかった讚美歌も今年は解禁され、中学合唱部による祈りの歌も捧げられました。

今年も、78年前のあの日を思い起こさせるような、じりじりと照りつける夏の朝でした。被爆された生徒、教職員350名の方々のはかりしれない無念さを思うと、やり切れない思いで式に臨みました。

核の脅しを止めない人間の愚かさに絶望しながらも、絶対に平和を守っていかねば…という決意を改めて心に刻む1日となりました。

それぞれの場で、平和を作り出す人、平和を実現させる人になりたいと強く思いました。

(宗教委員会 佐々木 麻樹)



支部会だより

この度の令和6年1月能登半島地震の被害に遭われた方々に心よりお見舞い申し上げます。一日も早い復興をお祈りしております。

鹿児島支部会

4月7日(金) 竹林 参加者6名

若葉萌えいずる頃、本支部会員の竹林にてタケノコ掘りをしました。本部より竹内路子会長と山口幹事もご参加くださり、生命力のかたまりのタケノコにパワーをもらいながら、日々、竹林の丹精込めた手入れあってこそその自然の恵みに感謝の気持ちで収穫を堪能しました。

一汗かいた後は、レストランで会食を楽しみ、母校の近況や懐かしい話に花が咲き、次の開催を早くも心待ちにお開きとなりました。

市来 真樹子
(高44)



関西ブロック会(京都支部担当)

5月31日(水) ホテルグランヴィア京都 参加者57名

コロナ禍で三度も中止していたブロック同窓会をやっと京都で開催することができました。

今年度は、ブロック長の山口裕子さんに“ことばのおもしろさ”についてお話をいただきました。ことばの持つ背景を知り、文化の違いを理解することの大切さを学びました。

久しぶりに対面で話すことができ、終始和やかな雰囲気であつという間に時間が過ぎていきました。年に数回行っている歴史散歩の会も、楽しい交流の場になっています。

中山 厚子
(高28文英10)



山口支部 東部地区会

6月3日(土) 錦月堂本舗 参加者22名

今年は、本部から竹内会長をはじめ、岩崎副会長、三十日幹事、及び高山佐伯地区長にもご参加頂き総勢22名の会となりました。

4年ぶりの会は同窓生の華道家(池坊流)蔵重伸さんにご講話頂き伝統文化の重要性に気づかされ、またお花と共に生きられた凛とした姿勢に感銘を受けました。その後参加者全員がフラワーアレンジを楽しみ、有意義な地区会となりました。

次年度も、多くの同窓生の皆様にお会いすることを楽しみにしております。

正木 由紀子
(高27)



鳥取支部会

6月11日(日) 倉吉シティホテル「ふじ蔵」 参加者7名

竹内会長を初めてお迎えして第3回支部会を開催しました。女学院の現状をお聞きしたり、次年度役員の新体制を確認する他、各々の近況報告を交えながら貴重な時間を過ごしました。11月には鳥取砂丘の美しい写真入りの「支部便り第4号」を無事発行し、会員の皆様にお届けしました。

6月9日(日)には第4回支部会を鳥取市で開催予定です。人口最少県ですが、一人でも多くのご参加を心から願っています。

神部 みゆき
(高18大英18)



愛媛・高知支部会

6月17日(土) ANAクラウンプラザホテル松山 桃園 参加者13名

今年度も晴天に恵まれ、本部から竹内会長はじめ2名の幹事、またはじめて香川・徳島から参加して下さった支部長とスタッフの方にもすぐうち解け、楽しく和やかな支部の垣根を越えた交わりを楽しめたひと時であった。

会長から母校のいま、これからの展望などをお聞きし、広島女学院に連なる者としての誇りや喜び、母校へ寄せる熱い思いなどを交感したひと時だったように思われた。

「来年もまた会おうね!」の声かけは参加者からのありがとうメッセージ、世話人一同感謝して受けとめた。

田中 テカ子
(大英17)



賀茂地区会

6月24日(土) KURARA Cafe ソラオト 参加者29名

4年ぶりの地区会となり、以前のように先輩同窓生も参加して下さるか危惧しておりましたが、本部より竹内会長をはじめ幹事2名の参加をいただき、そして多くの地区同窓生も足を運んでくださり、無事開催することができました。

ハーブインストラクターの池田景子さん(短27)に「暮らしに活かすハーブ」と題してお話していただき、珍しいバタフライピーのハーブティーの試飲、サジェ(匂い袋)の作成と、楽しいひと時を過ごしました。

三善 純代
(高28文英10)



関東ブロック主催(千葉支部担当) 原爆死没者追悼礼拝「夏雲の集い」

7月15日(土) 白金教会 参加者56名

今年の夏雲の集いでは、礼拝の後「記憶の解凍」と題して現役大学生庭田杏珠さん(高72)に講演して頂きました。白黒写真をカラー化する事で、原爆投下前にも今の私達と同じ日常生活があったこと、その平穏な暮らしが一変したことを実感でき、戦争、平和、人に寄り添うことを考える時間となりました。

出席者56人の中に、お子様連れ、お母様の代理の方もあり、この集いを35年続けた意義を感じました。女学院で平和について学んだ事を思い出す一日になりました。

村中 陽子
(高27文英9)



佐伯地区会

9月12日(火) 厳遊庭 参加者12名

今回は親睦食事を新企画として行ないました。

毎回清鈴園への奉仕作業をしていますが、コロナ5類後も未だに楽々荘での飲食ができず、以前のような和やかさが薄くなってきましたので、初めての「お楽しみ会」を開催しました。

くじ引きで席を決め「老若女」問わず新鮮な交わりの中で意外な楽しいお話ができ、食事内容の見事さと素晴らしい瀬戸内風景を眺めながら豊かな時間を過ごすことができ、11月の奉仕作業への新たな気持ちを持つことができました。

森 静子(文英1)

静岡支部会

9月30日(土) 梅の花 静岡店 参加者7名

念願であった第1回静岡支部会を、本部の竹内会長をお迎えし、9月30日に静岡市で開催しました。

竹内会長から母校の現状などを伺いながら、一気に女学院時代の光景が蘇り、当時の校舎・学食・寄宿舎・先生方との思い出等々の話に花が咲きました。「久々に、こんなにたくさん話をし、笑うことができました」という声も上がり、静岡にも広島女学院の小さな輪を広げることができました。

松井 和子
(高27)



広島地区会

10月13日(金) アンデルセン5F スカンジナビアホール 参加者57名

三谷高康院長・学長に「私の半生」という題で講演をしていただきました。先生の多感な少年時代のお話や富山県の禅寺での修行を経てのキリスト教に出会うまでのお話を伺いました。また、アメリカに留学された時の数々のエピソードをユーモアを交えて披露されました。

先生の人間味溢れるお話を皆興味深く拝聴し楽しいひと時を過ごしました。



鶴 弓子
(高29文英11)

中部ブロック「あやめ」会

10月21日(土) マサスキッチン Rゲートタワー12F 参加者12名

コロナ禍もようやく収束を迎える中、本部から岩崎副会長、三十日幹事のお二方にお越し頂き総勢12名で美味しい食事と共に、年齢の幅などは一切飛び越して、女学院特有の網目を張り巡らした繋がりでの終始和やかな歓談でした。

「来年も会いましょう!」「女学院を卒業したことを誇りに思います!」などの声のなかで、名残りを惜しみながらの閉会となりました。

山本 暁美(高18)



福岡支部会

10月21日(土) ホテルニューオータニ博多 大観苑 参加者21名

三谷高康院長・学長をお迎えし、本部からは竹内会長、塩冶副会長のご出席を頂き、佐賀支部と合同で四年振りの支部会を開催。三谷学長には元気が出るお話をお願いしていました。

『桃栗三年柿八年人一生』『人生は結果ではなくプロセス(生き様)が大事。人は成長していくものだ』と言われ、改めて日々の生き様を振り返りながら元気で少しでも成長したいと思いました。感謝!



瀬良 紀子
(高11大英11)

香川・徳島支部会

11月12日(日) JRホテルクレメント高松 参加者7名

当日はあいにくの小雨だったが、会場は熱気に包まれた。竹内会長から母校の現状とこれからの課題への取り組みのようすをお聞きし、それを受けるかたちで、一人ひとりが自己紹介を兼ね、学生時代の母校での体験や、その後の身の回りのことなどを報告し合った。

今回はこの自己紹介に時間が取れたこともあり、より深いところで互いを知り、受けとめる交わりができたのではないかと感じられた。今後の支部活性化に活かしていきたい。



有岡 公子
(高23短22)

同窓会バザー 11月3日

2023年11月3日(祝)、コロナ禍を経て、女学院中高文化祭が4年ぶりに外部からのお客様を迎えて開催されました。同窓会も待望のバザーを開くことができました。

コロナ禍の3年間は感染対策を講じて内々での「ミニバザー」を開くことしかできませんでした。今年は通常のバザーで、多くの方からの献品、パン、果物、弁当、花、クッキーを販売し、高い収益を上げることができました。皆様のご協力を感謝いたします。

収益は本部活動費に充当し、一部は8月6日の平和祈念式に使わせていただきます。

(バザー委員会 椎木 裕子)



湊晶子先生の新著

「現代を生かす新渡戸稲造の人格教育」(取扱:紀伊国屋書店)

私たちが女学院に学べたのは、キリスト教に立脚した女子人格教育を推進した新渡戸稲造をはじめとする多くの方々の尽力の賜物なのだ、と深く感じ入るとともに、そこに学んだ者としての責任と使命についても改めて考えさせられる湊先生のエッセンスがぎゅっと凝縮された一冊です。

これまでに行われた数々の記念講演や記念礼拝も収録されており、深く温かい名言の数々を、懐かしいお声で聞いているような気持ちで拝読。永遠のロールモデルでいてくださる先生に感謝しつつ、多くの同窓生が何度も読み返すことでしょう。



「明子さんのピアノとパルチコフさんのヴァイオリン」

(二口とみゑ共著・監修)

明子さんとパルチコフさん、二人の生きた痕跡が、この本と残された楽器にこめられています。女学院という縁で繋がる二人の壮絶な人生を同窓生として心にとどめておきたいと思います。



劇団「銅鑼」の公演を鑑賞して

10月24日(火)東区民文化センターにおいて同窓生佐久博美さん(高32)が所属する劇団銅鑼の公演「いのちの花」が舞台手話通訳付きで上演されました。青森県三本木農業高校の女子高生達の取り組みをもとにした演劇作品です。

ペットとして可愛がっている犬や猫、鶏などの家畜をはじめ多くの動物たちが殺処分され、その骨がごみとして捨てられている現実と直面して憤り悩みながら「命の花プロジェクト」を立ち上げます。その骨を砕いて土に混ぜ、花を植え、咲いた花を人々に愛してもらおう、という活動です。

とても衝撃的で深い内容でしたが、高校生の純粋さや行動力、人間の身勝手さ、命の重さや大切さについて考えずにはいられませんでした。